

JICA 兵庫 教師海外研修 in Vietnam 8月4日(火)～8月5日(水)

8月4日(火)

◆バクザン省小学校視察



■目的:青年海外協力隊の活動視察、教員との意見交換、児童との交流を深める

- ・「おはじき」や「じゃんけん」など、日本のあそびと共通点があることが興味深かった。
- ・土の運動場やボールなどの備品がない中で、日本から持ち込むのではなく、現地にあるものを工夫して指導されている青年海外協力隊員の姿が印象的だった。
- ・小学校の先生方が、土地の料理で歓待して下さった。先生はほぼ全員が女性で、教育の考え方が子育てと似ている気がした。農家にも訪問させて頂いた。主人が、「子どもに農家は継がせたくない、大学へ行かせたい」と言っておられたのが印象深い。
- ・学力によってクラス構成されており、今回のような交流の場や研究授業などは、必ずA組で行われるという現実を目の当たりにした。
- ・バスを降りるなり、いきなり、サインを迫られ、大歓迎を受けた。日本を離れ、少し旅の疲れが出てきた頃だったので、子どもたちの歓迎に元気が出た。
- ・学びたいという食欲さや溢れんばかり的好奇心は印象的であり、子どもたちの輝く瞳は忘れられない。教員も含めて昼食は各自家庭で取る習慣は家族を大切にする国民性の現われと思えた。

8月5日(水)

◆ホアビン省モーハイ村 (ホームステイ体験)



■目的:少数民族の暮らす村落部の生活を体験し、ベトナムにおける都会と田舎の違いを感じる

- ・子ども達の笑顔が素晴らしい。
- ・今後も自然と文化を大切にしてもらいたい。
- ・観光向けの村として衛生面を整備することは、集落の保存や少数民族保護の方法としては良いと思われる。
- ・民族的な住居で生活する中で、家族の大切さ、あたたかさに気付いた。家族のなかで私の相手をしてくれたのは、高校生の子と父親だった。母親は家事をしたり仕事をしたり忙しそうに働いていた。村の子どもたちは、「だるまさんがころんだ」をベトナム版にかけて遊んでいた。工夫をして遊ぼうという子どもの気持ちほどこの国でも同じだと感じることができた。
- ・村全体が観光地化していて、食事から民芸品、もてなしの民族舞踊まで単価がついており、少数民族の生活を体験することがビジネスモデルとして成り立っていることが新鮮だった。
- ・伝統的な生活を残して、先進国の人々を迎えるという方法に感心した。外部の者のためにトイレやシャワーを作り、そこに泊めてもらって伝統的な生活を体験するという事実に気が引ける部分もあったが、実際は、印象深い一日だった。消えてしまった遠い時代の人類の記憶を呼び覚ますのだろうか?
- ・散歩道の途中で、出荷するためにサトウキビを処理している場面を見た。大人も子どももみんなで楽しそうに作業しているのが印象的だった。一緒にパンプーダンスをしたり、椰子のような果物から作ったお酒を長いストローで吸い上げて飲んだりして、貴重な体験ができた。
- ・言葉は通じないが、一生懸命何かを伝えようとする姿勢や、その雰囲気に、心と心が結ばれるものだと思った。行く前は、研修プログラムの中で一番不安をいたいでいたが、ベトナムの人たちの心に身近に触れることができ、一生忘れない感動と思い出を築くことができた。行って良かったと思えるようになった。
- ・ベトナムの伝統的な生活を体験できたことは貴重なものとなった。村は私たちの予想を裏切り、水洗トイレがあり、電気が通っているなど随分整備されていたが、家族愛、地域の人々とのつながり、人をもてなす心などかつての日本が大切にしていたものがこの村では守られており、これからもずっとそうであって欲しいと思う。

▲かつての爆弾は、今は村の鐘として使われている。

JICA 兵庫 教師海外研修 in Vietnam 8月6日(木)～8月7日(金)

8月6日(木)

◆ホアビン省総合病院



■目的:技術協力プロジェクト、青年海外協力隊の活動視察、ベトナムの医療事情を知る

- ・検査室にある機械が日本で使われているものと変わらないことに驚いた。医療器材が有効に使われるよう情報交換や指導能力を向上させていけば、もっと都市部との医療サービスの格差がなくなると思う。
- ・ODAといえばインフラ整備のイメージが強かったが、人材育成に重点を置いているとのこと。その結果として医療サービスの向上につながっていることを聞くことができた。
- ・病院、医師不足で受診のために遠方から1日かけて来なければならない人たちがいること、地域格差が大きく助けられる命が守られていない現実に胸が痛んだ。医療廃棄物の管理が不十分であることなど乗り越えなければならない課題は多く、今後一層の支援が必要な分野ではないだろうか。

◆ホアビン省ドンタム村視察



■目的:青年海外協力隊の活動視察、村落部が抱える問題について知る

- ・壁の活動計画にあるたくさんの書き込みや付箋から、協力隊員が村の人々と意見を交わし合って活動されていることが具体的に想像できた。
- ・これまで道路状況の比較的良い所ばかりを走ってきたので、約2時間弱の悪路を走ってたどり着いたドンタム村は新鮮だった。この村で、私なら何ができるだろうと考えさせられた。
- ・のんびりした土地で、隊員の支援の元、農業を組織化させようと実践していた。この地にあった有機的な活動形態が確立していくべきだと思う。
- ・村人自身が村の課題を話し合い、改善策を作る場である「村づくり委員会」のサポートをし、村人と話し合いながら、その生活改善のために頑張っている。日本を離れ、地域の信頼を勝ち取りながら、頑張っている姿に尊敬の念を抱いた。
- ・整備が十分でない道、決して衛生状態が良いといえない市場など今の日本とかけ離れた状況下で協力隊員が活躍する姿に、支援と自立に向けた人材育成や取り組みの双方が必要であると実感した。

8月7日(金)

◆日本大使館表敬訪問



■目的:ベトナムについての理解を深める、海外研修について報告する

- ・ベトナムの教師の問題について知ることができた。
- ・それぞれが感じたことを短くまとめて発表した。日本とベトナムの繋がりや、円借款事業、技術協力などについて振り返り、この研修で得たものを考える機会となった。
- ・ベトナムが抱える課題のひとつに教育がある。特に教師の質・量の問題は深刻であることを知り、若者が多いベトナムにおいてその需要は一層高まると思われる。

◆チルドレンズパレス見学 (青年海外協力隊員活動先)



■目的:青年海外協力隊の活動視察、生徒との交流を深める、教育事情について理解を深める

- ・学校で課外活動の指導せずに、専門的な人に適切に指導してもらえる環境があるのが素晴らしい、日本も取り入れるべきだと思いました。
- ・一つの建物で英会話やダンス、運動ができ、いろいろな年齢の子がいきいき活動していることが知れてよかったです。また、日本語クラブの子とは折り紙と一緒にしていい体験をすることができた。
- ・最後に子どもたちと共に「世界に一つだけの花」を歌ったのが印象深い。
- ・日本からの協力隊員が、日本語教室で日本語や日本の文化を教えていた。自分と接する子どもたちに思い出を一つでも多く残し、「自分自身が、ベトナムと日本の架け橋になれたら」という気持ちで活動していると話してくれた。派手な行事の陰に、胸に熱い思いを描き、地道な活動を続けている貴重な人の存在を感じた。

◆教育関係隊員との意見交換会・研修ふり返り



■目的:海外研修中に得た知見をまとめる

- ・意見交換をする中で、ベトナムでのたくさんの体験を日本に帰ってどのように授業で生かすのか考える機会になった。
- ・ベトナムの教育事情がよくわかった。教師が教え込み、生徒が覚える授業が一般的で、大学生でも自ら考えることをしないと嘆いておられたのが印象的であった。日本の教育を改めて見つめ直す機会にもなった。
- ・ベトナムで見聞きしたことを思い返しながら、現段階での自分の考えをまとめるのに、とても有意義な場だった。同時に、多くの方々への感謝の気持ちが沸き起こった。